

高一

近藤 光謙

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあった。それはこの村でのある闇夜の経験であった。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見える、大きな闇のなかであった。街道へその家の燈が光を投じている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があった。

優良賞

高一

篠子 響

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあった。それはこの村でのある闇夜の経験であった。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見えている、大きな闇のなかであった。街道へその家の燈が光を投げている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があった。

優良賞

高一

杉原 莉子

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあつた。それはこの村でのある闇夜の経験であつた。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見える、大きな闇のなかであつた。街道へその家の燈が光を投じている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があつた。

優良賞

高一

貫井 莉々明

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあった。それはこの村でのある闇夜の経験であった。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見える、大きな闇のなかであった。街道へその家の燈が光を投げている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があった。

優良賞

高一

原島こはる

私は空のなかに見えない山のようなものがあるのではないかというような不思議な気持ちに捕えられた。そのとき私の心をふとかすめたものがあった。それはこの村でのある闇夜の経験であった。

その夜私は提灯も持たないで闇の街道を歩いていた。それは途中にただ一軒の人家しかない、そしてその家の燈がちょうど戸の節穴から写る戸外の風景のように見える、大きな闇のなかであった。街道へその家の燈が光を投げている。そのなかへ突然姿をあらわした人影があった。

優良賞